

# 2022年 おやじの山旅 九州の山(北部)

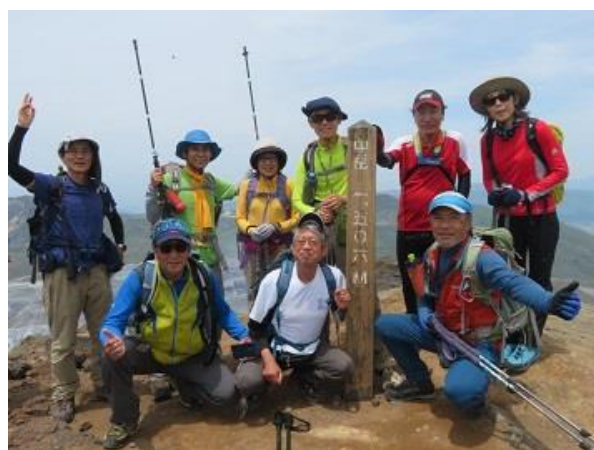
(2022年5月25日～6月2日)



阿蘇山 高岳登頂 1592m (5月28日 10時50分)



阿蘇の噴火口跡



中岳山頂 11時30分

## 1.趣旨

長年デンソー山岳部で活動した仲間達が定年を迎えた。  
その仲間達で2016年におやじの山旅を立ち上げた。  
かけがえのない仲間達でこれからも山を楽しみ続けたい。(その7年目)

## 2.コンセプト

山を通して自然・郷土料理、現地の人とのふれあいを楽しむ。

## 3.計画

山域・山名 九州の山(北部) 7座  
(雲仙岳、阿蘇山、祖母山、大船山、久住山、由布岳、英彦山)  
期間 2022年5月25(水)～6月2日(木) 9日間

### 参加者と役割分担

No.	氏名	役割	登山担当リーダー	保険	生年月日	年齢	血液
1	金子 清	CL・渉外	阿蘇山	登山S	1955/5/10	67	A
2	藤田 勝啓	SL・装備	久住山	登山S	1953/6/6	68	B
3	町田 修	SL・地形・記録	祖母山	登山S	1955/9/5	66	B
4	津田 廣一	記録(正)	雲仙岳	登山S	1953/6/20	68	O
5	津田 利栄子	(ゲスト)		ハイ1	1955/8/11	66	B
6	竹内 幹雄	気象・写真	英彦山	登山S	1951/10/26	70	O
7	天野 広	会計	大船山	登山S	1955/4/25	67	AB
8	上田 正博	記録(副)	由布岳	ハイ1	1950/5/23	72	A
9	鈴木 浩子	(ゲスト)					



スケジュール(概要)

No.	2022年 月/日	山名	標高 (m)	登山コース	登山行動 時間(h)	担当	宿泊先
1	5/25(水)	(移動)		(中部国際空港～福岡空港)		金子	
2	5/26(木)	雲仙岳	1359	仁田峠～妙見岳～国見別れ～国見岳～国見別れ～紅葉茶屋～普賢岳～紅葉茶屋～仁田峠	6:40	津田	民宿 雲仙
3	5/27(金)	(移動)		島原外港～(フェリー)～熊本港～熊本城～休暇村		金子	休暇村 南阿蘇
4	5/28(土)	阿蘇山	1592	仙酔峡登山口～高岳～中岳～仙酔峡登山口	5:00	金子	
5	5/29(日)	祖母山	1756	北谷登山口～国観峠～祖母山～風穴～登山口	5:20	町田	
6	5/30(月)	大船山	1786	九重登山口～雨ヶ池越～大船山～坊がつる～法華院温泉 ⇒雨予想の為、湯布院観光へ急遽変更(宿も湯布院 YHへ)	6:10	天野	法華院温泉
7	5/31(火)	久住山	1787	法華院温泉～鉾立峠～久住山～諏蛾守越～九重登山口 ⇒涌蓋山へ変更	7:30	藤田	湯布院カントリー ロード YH
8	6/1(水)	由布岳	1583	正面登山口～由布岳～正面登山口	6:00	上田	
9	6/2(木)	英彦山	1199	正面登山口～英彦山～正面登山口 (福岡空港～中部国際空港)	4:00	竹内	

行き 5/25(水)：中部国際空港 9:30～(SFJ061 便)～福岡空港 10:55

帰り 6/2(木)：福岡空港 20:10～(SFJ068 便)→中部国際空港 21:30

## 九州の山(北部) 登る山(7座)





## 4.思い出の1コマ、1コマ

5月25日 前日の下見



登山口の下見をしておいてよかった！  
(翌日の出発時は、ガスって見えず)

5月26日 ジンクス復活の雲仙岳（普賢岳を登り、下山は本降りに・・・）



妙見神社到着



国見別れ付近の  
ミヤマキリシマ



紅葉茶屋



普賢岳山頂から平成新山を見る

5月27日 島原→熊本へ移動、熊本城観光→休暇村へ 移動日は快晴の暑い日だった



雲仙岳綺麗だね！



噴火で埋まった家



フェリーで移動



くつろぐ面々



熊本城観光

5月28日 快晴の阿蘇登山 火口もバッチリ見えたぜ！



登山口に着きました



高岳目指し厳しい登り



一時の憩



リベンジしたぞ



高岳山頂の賑わい



高岳山頂で休憩



中岳山頂より火口を望む



阿蘇の火口は雄大だあ～



火口東展望所より



ロープウェイの柱



登山後大観峰へ



阿蘇五岳説明看板



観光客に交じって



大観峰頂上で集合写真



夕陽と根子岳



5月29日 祖母山（晴れ時々曇り） 天気もよくルンルン登山



樹林中を歩く



樹林の中で1本



国観峠付近を歩く



祖母山頂上到着

鈴木さんと登頂を祝う👏



5月30日 雨の為、計画変更；九重を断念し湯布院観光へ



昭和レトロ館 懐かしく楽しい



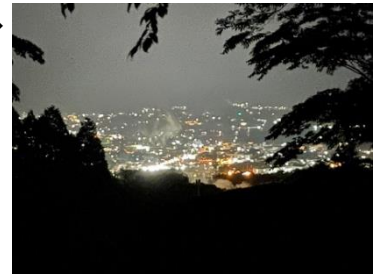
昭和のアイドル



ちぎり絵 (山下清) 🇯🇵



湯布院の夜景➡



5月31日 計画外の涌蓋山へ（曇り空だが雨は降られず）下山後は晴れ



涌蓋山登山口



花を愛でつつ登る



ミヤマキリシマ真っ盛り



花の登山道、いいね！



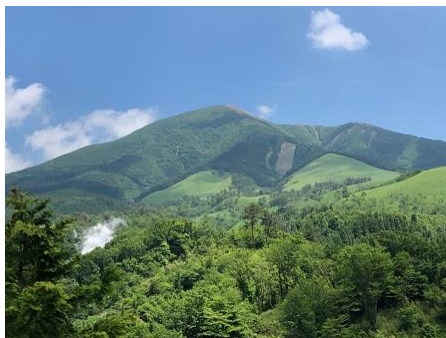
頂上直下の登りです



山頂1人占め



女岳頂上で



豊礼の湯から仰いだ涌蓋山



サツマイモ地獄蒸しのおやじ



夜は蛍狩りで（夜の逆さ由布岳）



6月1日 由布岳（晴れ） 風にも負けず、西峰・お鉢巡り・東峰登頂



さ〜出発だ！（登山口にて）



お花のお出迎え



マタエから東峰を望む



西峰目指し



登攀クライマックス



男4人、各々の登攀終了



西峰の頂に立つ



お鉢巡りだぞ！



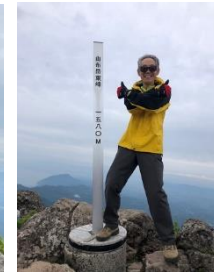
満開のミヤマキリシマ



こんな所も通り



東峰へ到着しました



ポーズをする男



最後に鹿君がお見送り

6月2日 英彦山（晴れ） 計画通りぐる〜と周回登山（ちょっと疲れたかな？）



5月の朝霧(雲海)珍しい



元気に宿を出発！



歩き出してすぐ奉幣殿



上宮、台風で壊れ哀れ



上宮、距離をとって見ると美しいが、よく見ると壊れた所が見えます



山頂で悪ふざけ



北岳山頂ピース



こんな悪路を下山して



崖に張付いた高住神社



奥深い所に立派な神社



## 5.行動記録

### 5/26 (木) 雲仙岳報告書 曇り後雨

■ルート (仁田峠登山口⇒妙見岳⇒国見別れ⇒国見岳⇒国見別れ⇒普賢岳 1359m⇒紅葉茶屋⇒仁田峠登山口)



#### 参加メンバー

C L ; 津田 廣一 S L ; 藤田 勝啓  
町田 修、竹内 幹雄、金子 清  
天野 広、上田 正博、津田 利栄子



雲仙普賢岳登頂を喜ぶ 8 人

#### ■行動記録 (行動時間 4 時間 5 分)

8 : 00 宿発(民宿 雲仙)→8 : 30 仁田峠登山口発→9 : 20 妙見岳→9 : 40 国見別れ→10 : 00 国見岳  
→10:45 紅葉茶屋→11 : 10 - 20 普賢岳山頂→11:35 紅葉茶屋→12 : 30 ㊦㊱乗り場→12:35 登山口着



さ〜出発だ!



国見目指して岩場を攀じる

前日の天気予報は雨。“おやじの初日は雨”のジंकス復活か?と思っていたが、曇り空ながら持ちこたえてくれている。しかし、いつ降り出してもおかしくない空模様に、カッパ覚悟の登山が始まった。いつもの様に、たわいない話をしつつポレポレで登っていく。汗もかかずに一気に妙見岳へ。妙見神社で登山の安全を祈願する。狭い尾根道を並行移動する



妙見神社で安全祈願

が、所々で現れる花々に心が和む(ウツギ、ミヤマキリシマ、ドウダンツツジ、ヤマボウシ)。国見別れに至るも、まだ雨は降っていない。雨なら岩場のある国見をパスする事も考えていたが、まだ雨は大丈夫そうだ。国見のピストンを決断。すぐに岩場にさしかかる。ストックをしまい、3点支持で鎖場を通過。岩場を過ぎて廻りこむと国



国見山頂付近のミヤマキリシマ



パチリ 国見岳山頂です

見岳頂上へ。頂上付近は、ミヤマキリシマが満開だ。登って良かったと思う。写真を撮って、早々に先を急ぐ。まもなく鬼人谷口へ。ここから鳩穴別れを経由して普賢岳へ向かう計画だったが、雨がパラパラし始めた。計画を変更して紅葉茶屋から普賢岳を目指す事に。カッパを着て、普賢への急登を登る。今まで、暑さを感じなかったが、さすがに暑い。汗をしっかりとかいて、身体をもち上げる。格闘する事、20分。普賢岳登頂。



普賢岳先行 4 人組登頂を祝う

不思議と雨が小降りとなり、平成新山もハッキリと見える。10分程、頂上の景色を楽しんで下山開始。紅葉茶屋まで降りる頃には本降りとなってきた。ジंकスは復活したが、心満たしての山行となった。(記:津田)



普賢岳初登頂 バックは平成新山



5/28 (土) 阿蘇山 晴れ

■ルート 仙酔峡登山口～高岳～中岳～仙酔峡登山口

全行程 5.6km 行動予定 5.0 時間)



参加メンバー

CL ; 金子清

SL ; 竹内幹雄、津田廣一

藤田勝啓、町田修

天野広、上田正博

津田利栄子、鈴木浩子



阿蘇山 高岳山頂

行動 (行動時間 3 時間 45 分 休憩含む)

仙酔峡登山口 9:00 → 高岳 10:50-11:20 → 中岳 11:30~11:40

→ 火口東展望所 12:00~12:10 → 仙酔峡登山口着 12:45

休暇村 南阿蘇を 8:10 に出発する。30 分ほどで仙酔峡登山口駐車場に着く。身支度をすませ出発。駐車場から仙酔峡尾根ルートに行く。登山口付近はミヤマキリシマが咲いていたが終わり頃、遊歩道を過ぎると溶岩状の登山道になる。天気も良く、快調に登る。2 時間足らずで高岳山頂へ着く。山頂は展望も良く、多くの登山者で賑わっている。中岳に 20 分ほどで着くと噴煙を上げる火口が間近に見える。硫黄の臭いが鼻につく。大噴火の凄さがわかる。火口を左に見ながら火口東展望所まで行く。休憩後、シェルター、ロープウェイ山頂のりば (廃墟) を見ながら仙酔峡登山口まで下る。



阿蘇山 火口

中岳～火口東展望所～仙酔峡登山口の間は以前通行禁止になっていたが今回運良く歩くことができた。

帰路は阿蘇観光スポットの大観峰と草千里を巡り休暇村 南阿蘇へ戻る。 (記: 金子)



高岳への急登



中岳から火口東展望所へ向う



ロープウェイ山頂のりば (廃墟)



## 5/29 (日) 祖母山報告書 晴れ時々曇り

■ルート (北谷登山口⇒「千間谷コース」⇒三泉境⇒国観峠⇒祖母山 1756m⇒「風穴コース」⇒風穴⇒北谷登山口)



### 参加メンバー

CL ; 町田 修  
 SL ; 金子 清  
 津田 廣一  
 竹内 幹雄  
 藤田 勝啓  
 天野 広  
 上田 正博  
 津田 利栄子  
 鈴木 浩子

### ■行動記録 (行動時間 4 時間 55 分)

8 : 00 宿発(南阿蘇休暇村)→9 : 15 北谷登山口発→10 : 10 四合目上→11 : 10 1500m  
 →12:00-25 山頂→13:25 風穴の下部→14:10 登山口着

登山口までの細く長い林道は舗装道路に工事中だが、期間限定で何とか入れた。百名山にしては少し寂しいアクセス道だ。さて、その「祖母山」名前、神武天皇の皇祖母にあたる豊玉姫を祀ることがその名の由来らしい。神々の山だ。標高は 1756.4m、祖母傾（そぼかたむき）国定公園の最高峰にもなっている。阿蘇の広大な草原と溶岩と日差しのある世界と違い、樹林の中の風景だ。深田久弥は「たしかに祖母山は一瞥直ちに人を惹きつけるという、際立った山容ではない。ケレンもなく奇抜さもない・・・こういう山は流行には乗らないが不易の命を持っている」と、滋味さを



登山口



①樹林の中

を言っている。登りは三泉境への尾根道を取った。その登山道は樹林の中を縫って山頂直下まで続いている。我々も木漏れ日を浴びながら (写真①参照) 尾根道を快適に歩く。山頂近くにはショウキウツギ・ベニドウダンツツジが咲き、上部には幾らかのミヤマキリシマが「ようこそ」と咲いていた。山頂は天気が良く、西に阿蘇の根子岳、東に傾山、北には久住山がどしり連山を連ねている。ゆっくり休んでぐるりの山々を楽しみ、風穴コースに下った。上部は梯子と岩場で少し険悪だったが、風穴を過ぎると緩やかになり、沢筋を下って行った。確かに風穴はひんやりとした風が感じられた。幾つかの沢を軽く渡渉し、程なく駐車場の脇の林道に出た。我々は少し騒がしく、あまり滋味ではないが祖母山から不易の命を少し分けてもらった・・・と思い、さらに数多の山々を楽しんで行きたい。(記 : 町田)



ベニドウダンツツジ



ショウキウツギ



ミヤマキリシマ



## 05/30（月）長者原ビジターセンターと湯布院観光 雨

### ■行動

9:00 休暇村発 → 10:10 長者原ビジターセンター着 11:10 駐車場発 → 12:00 昭和レトロパーク湯布院  
昭和館 13:10 → 散策・昼食 → 15:30 ユースホテル着

参加メンバー 天野 広、竹内 幹雄、上田 正博、金子 清、津田 廣一、利栄子、藤田 勝啓、町田 修

今日は九重山の大船山に登り法華院温泉に宿泊予定だった。しかし、あいにくの大雨と強風が予測されたため5月28日の夜に全員で協議し観光に変更した。まず長者原ビジターセンターに寄り、まずハイビジョンシアターを鑑賞した。九重連山の成立ちや四季の移り変わりの様子を見た。ミヤマキリシマだけでなく、どの季節も素晴らしい景色だと思った。その後一階に降りると別のシアターがあり、こちらはタダ原湿原での野焼きの様子を詳しく説明していた。緑の絨毯がどの様に守られているか良く分かった。ボランティアも大勢参加していて機会があれば自分も参加したいと思った。その後湯布院に移動し、昭和レトロパークを楽しんだ。昭和30年頃の町並みや電気店の電化製品（テレビ、洗濯機、氷の冷蔵庫など）が懐かしかった。手打ちのパチンコ・射的・スマートボールやら懐かしいゲームが無料で遊べ、自分はピンボールを何回も楽しんだ。古いレコードのジャケットもたくさんあり、アイドルの写真がとても可愛かった。2階に上がると今度は山下清の原画が展示してあった。貼り絵だけと思っていたが、マジック画とかもあった。昭和館を出て食事の店を探しながら湯布院の街を散策したが、人出が多くて少しびっくりした。

（記：天野）



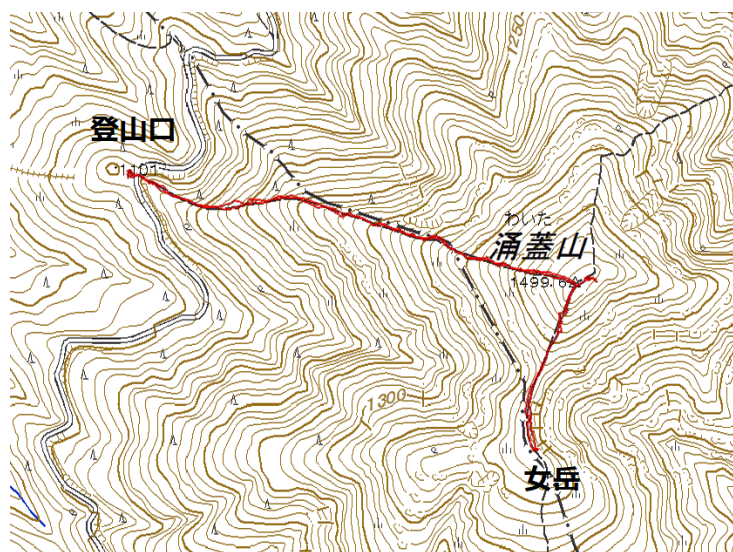


5/31 (火) 湧蓋山 (わいたざん) 曇り/晴れ

■ルート (登山口～湧蓋山～女岳～湧蓋山～登山口)  
全行程 4km 行動予定 2.5 時間)

参加メンバー

CL ; 藤田 勝啓	SL ; 津田 廣一
金子 清	町田 修
天野 広	竹内 幹雄
上田 正博	津田 利栄子



■行動 (行動時間 2.5 時間 休憩含む)

6 : 00 起床 8 : 00 ユースホステル発 → 9 : 00-15 登山口 → 9 : 50 休憩 (1300m 付近) →  
10 : 15-25 湧蓋山 → 10 : 25-40 女岳 → 11 : 00 湧蓋山 → 11 : 45 登山口 → 12 : 10 豊礼の湯

湧蓋山は九重連山の西に位置し、円錐形の山容を誇る。山頂からは大展望と登山道では四季折々の花が楽しめる。コースは小国町の岳湯登山口から樹林帯の急登で始まる。

しばらく我慢すると、視界が開け、ミヤマキリシマが現れるので1本立てる。

目を麓にやると、岳温泉は地獄と呼ばれる蒸気が霧の切れ間に噴き出ている。

ここからはミヤマキリシマが途切れない草付きの斜面が山頂まで続く。

登山口から小一時間で広々とした山頂に到着。湧蓋山の斜面をピンク色に染めるミヤマキリシマに癒やされる。記念撮影後、更に花を求めて女岳を往復する。女岳も期待通りにピンク色の園が迎えてくれた。

湧蓋山からの下山は登りで紛失したKさんの高級サングラスを捜しながら歩く。

程なく先頭の津田さんがサングラスを見つけて、Kさん大喜びで一件落着。

下山後はコバルトブルーの豊礼温泉に入浴し、卵とサツマイモの地獄蒸し (温泉蒸気で蒸す) でくつろいだ。

(記 : 藤田)



ミヤマキリシマ



登りにて



湧蓋山



豊礼の湯



## 6/1 (水) 由布岳 晴れ

■ルート (正面登山口～合野越～マタエ～西峰～東峰  
～マタエ～合野越～正面登山口)

参加メンバー  
CL ; 上田正博  
SL 天野広  
金子清、藤田勝啓  
町田修、津田廣一  
竹内幹雄  
ゲスト ; 津田利栄子



### ■行動

7:00 朝食 ユースホステル発 8:20→正面登山口発 9:00→休憩 10:00～10:15→マタエ 11:05着～11:15発 →西峰 11:35着→東峰 12:40着～13:00発  
→14:00休憩 14:10発→正面登山口着 14:40→15:10 ユースホステル着

正面登山口からの由布岳は、豊後富士と言われるほど美しい山で標高 1583mの活火山です。

マタエの分岐迄は、草原と新緑のブナ林と点在する山つつじ (ミヤマキリシマ) を見ての登り易い山ですが、マタエから西峰への登りは、急に鎖場や岩場の厳しい山行となりました。二日ほど前滑落事故も起きた場所と聞いており緊張の連続でした。強風にも耐えて、西峰に登りきると、更に強風が荒れ狂い、必死に写真を撮って、頂上を後にお鉢巡りに出発。東峰に向かいます。西峰の頂上を過ぎて、樹林の中に入ると風も気にならなくなりました。お鉢巡りの岩場のアップダウンを繰り返して東峰に到着し、一安心しました。

2時間ほどのお鉢巡りでしたが、途中では山つつじの群生が広がり、今回の目的の花見も堪能できました。また東峰の山頂からは湯布院の街並み、鶴見岳やその先別府湾の景色が望め楽しい山行でした。(記: 上田)





06/02 (木)「英彦山」 晴れ

■ルート 別所P→奉幣殿→中岳→南岳→中岳→北岳→高住神社→別所P

■行動 (行動時間 4 時間 43 分)

10:10 別所P・登山口→10:35 奉幣殿→10:57 休憩

→12:00 中岳→12:20 南岳→12:40 中岳→13:10 北岳

→13:55 高住神社→14:53 登山口・別所P

別所登山口・駐車場から出発。道を間違えて進むと藤田さんが指摘、正しい道に戻り「英彦山神宮」に向かう。途中「九州西国第一番札所」と書かれた石碑を見つけて立派な神社だと確信する。杉林の登山道を抜けると広場に「英彦山修験道館」が建っている。日本三大修験道の霊場として栄えた英彦山の文化財を展示しているようだ。そこから少し歩くと英彦山神宮「奉幣殿」に到着。立派な社殿を見ながら小休止する。ついでに賽銭を入れて手を合わせる。ここから先は石の階段が続くのでゆっくりと登って行く。途中にベンチとテーブルが設置してあって休憩するのに丁度いい場所であり一本取る。この先も石段登りが続くが頑張っけて登り 12 時頃に中岳 (上宮) に到着した。ここから最高峰を目指して南岳をピストンする。歩くこと 10 分。1199 m の南岳山頂に到着。樹林に囲まれていて展望はないが整備されており休憩場所に良い。ここで集合写真を撮り中岳 (上宮) に戻り休憩する。目の前には「上宮社殿」があるが倒壊する恐れがありロープを張って立ち入り禁止になっている。この社は「伊那那岐命、伊耶那美命」を祀る社殿ですが修復する財源が及ばずいつ倒壊しても可笑しくない状態になっていました。ここから迂回路を歩いて 20 分程で北岳に到着。振り返ると南岳、中岳が見えている。下山は高住神社を經由して別所・駐車場に戻るコースを歩く。急登を下るのにロープ、鎖場を慎重に進み、その先の石段を下りていく。やがて鳥居が見えてくると高住神社に到着。ここで一本取る。この先どのように下りるか考えていたら神社の宮司さんが地図をくれたので参考にして歩く。ここから登山道は平坦になり歩きやすい。分岐では標識を確認して歩いていく。九州自然歩道に入り、道なりに進むとやがて別所駐車場に到着した。この後、車で福岡空港に向かう途中、太宰府で銭湯に立ち寄り、汗を流してから帰路に着いた。

(英彦山は古くは日子山といったが、819 年 (弘仁十年) に嵯峨天皇の詔によって「日子」が「彦」に改められたといい、1729 年 (享保十四年) に霊元天皇から「英」の字を贈られ「英彦山」となった。) (記: 竹内)

参加メンバー

CL: 竹内幹雄、SL: 天野広、上田正博、藤田勝啓、金子清、町田修、津田廣一、津田利栄子



上宮



奉幣殿



英彦山・山頂



## 6. 特別寄稿

### 2022.おやじの山旅「三つの風景」

2022.6.7 町田 修

2022年5月、九州北部の山旅で印象に残った三つの風景があった。その一つは三泊したユースホステル「カントリーロード」から去るとき、お別れにオーナー夫婦が歌ってくれた「カントリーロード」のシーンだ。ジョン・デンバーを彷彿とさせる。

#### 原曲の歌詞（英語）

Almost heaven, West Virginia まるで天国 ウェストバージニア  
Blue Ridge Mountains, Shenandoe River ブルーリッジ山脈 シェナンドー川  
Life is old there, older than the trees 古からの暮らしがそこに  
Younger than the mountain 木々よりも古く 山よりも新しく  
Growing like a breeze そよ風のように育まれている  
Country roads, take me home カントリーロード 故郷へ連れて行け  
To the place I belong 僕が居るべきあの場所に  
West Virginia, Mountain Mamma ウェストバージニア 母なる山  
Take me home, country road 故郷へ導け カントリーロード



オーナーが黄色のギターを弾き、奥様の手拍子で大きな声で歌ってくれた。今までの山旅で、どの宿でも体験したことのない、感動的なシーンだった。湯布院の「カントリーロード」御飯も美味しかった！ 忘れられない風景。

二つ目は雨天を回避すべく、久住山※からシフトした涌蓋山に登り、下山後の露天風呂から遠望した涌蓋山の風景だ。何で涌蓋山？が分かった涌蓋山に変わった。期待以上にミヤマキリシマが素晴らしく、藤田さんの提案は大正解だった。※久住山のミヤマキリシマは裏年と害虫で不作だったらしい。それよりも私が感動したのは、乳白色の大露天風呂（豊礼の湯）と涌蓋山の風景だ。思わずああ～最高！と、感激する。山頂の一角がミヤマキリシマで微かにピンク色に染まっている（写真ではちょっと分からないかな）。湧き出る蒸気で茹で卵とサツマイモも美味しく食した。忘れられない風景。



三つ目は南阿蘇休暇村の2Fテラスから眺めた根子岳の風景。

もちろん外輪山の大観峰からの眺めも素晴らしかった！

風呂上がり、テラスに出て、少しお酒を頂きながらお釈迦様の寝姿といわれる根子岳の顔、高岳の胸、中岳の腹・・・をゆっくりなぞる。なるほどそれらしい。なかでも根子岳の岩峰の雄姿が興味を引く。この根子岳は眺めるだけではおさまらない。来季、是非 TRY したい。

忘れられない風景。

九州の山は良かたい！



# 九州北部の山で出会った花々 (2022年5月26-6月2日)

藤田勝啓

ミヤマキリシマは九州を代表する花で長崎県、鹿児島県、雲仙市、竹田市、霧島市、九重町で「シンボルの花」になっている。「なぜ九州にミヤマキリシマが多いのか？」疑問を感じながら山旅を続けていたが、ネットで調べると、「ミヤマキリシマは火山活動が終息した山肌で生存でき、逆に森林化が進むと生存出来なくなる。数十万年前に阿蘇山の噴火の溶岩で埋まり一つの島になった九州には現在17の活火山があり、ミヤマキリシマの生育に適した環境である。阿蘇山・九重連山・霧島連山、雲仙岳や由布岳は活火山でミヤマキリシマが自生した。」・・・納得した。しかし、活火山のため日本アルプスのお花畑に咲くような高山植物は少ないような気がしたが、山の斜面をピンク色に染め上げるミヤマキリシマの美しさは圧巻である。今回の山旅で出会った花々の一部を紹介する。

日付	山名	出会った花
5月26日	雲仙岳	<b>ミヤマキリシマ</b> 、 <b>ツリバナ</b> 、 <b>ツクバネウツギ</b> 、 <b>タツナミソウ</b> 、 <b>サワフタキ</b> 、ニシキウツギ、トウダンツツジ、ヤマホウシ、ガクウツギ、
5月28日	阿蘇山、大観峰	<b>マイヅルソウ</b> 、 <b>オカオゲルマ</b> 、 <b>ハルリンドウ</b> 、ミヤマキリシマ、ウマノアシガタ、ハルジオン
5月29日	祖母山	<b>ミヤマキリシマ</b> 、 <b>ツボスミレ</b> 、 <b>ツクシヤクナゲ</b> 、 <b>ペニササドウドン</b> 、 <b>マムシグサ</b> 、 <b>ハイケイソウ</b> 、ニガナ、ツクバネウツギ
5月31日	湧蓋山	<b>ガクウツギ</b> 、 <b>シライトソウ</b> 、 <b>ミヤマキリシマ</b> 、 <b>ジシバリ</b> 、 <b>ミナグサ</b>
6月1日	由布岳	<b>ウマノアシガタ</b> 、 <b>キンポウゲ</b> 、 <b>ミヤマキリシマ</b> 、 <b>イワカガミ</b> 、 <b>モシジイゴ</b> 、 <b>マユミ</b> 、マイヅルソウ、ニシキウツギ、
6月2日	英彦山	<b>ヤマホウシ</b> 、 <b>クリソウ</b> 、 <b>オオヤマレンゲ</b> 、 <b>ペニドウドン</b> 、 <b>カマツカ</b> 、 <b>タツナミソウ</b> 、 <b>オククルマムグナ</b> 、 <b>ガクウツギ</b> 、 <b>コゴメウツギ</b>

※太字は写真を掲載しています



ミヤマキリシマ (雲仙岳)



ミヤマキリシマ (雲仙岳)



ミヤマキリシマ (湧蓋山)



ミヤマキリシマ (湧蓋山)



ミヤマキリシマ (由布岳)



ミヤマキリシマ (由布岳)





ツリバナ (雲仙岳)



ツクバネウツギ (雲仙岳)



タツナミソウ (雲仙岳)



サワフタギ (雲仙岳)



マイヅルソウ (阿蘇山)



オカグルマ (大観峰)



ハリンドウ (大観峰)



ミヤマキリシマ (祖母山)



ツボスマレ (祖母山)



ツクシシャクナゲ (祖母山)



ベニサラサドウダン  
(祖母山)



マムシグサ  
(祖母山)



バイケイソウ (祖母山)





ガクウツギ (湧蓋山)



シライトソウ (湧蓋山)



ウマノアシガタ (由布岳)



キンポウゲ (由布岳)



イワカガミ (由布岳)



モミジイチゴ (由布岳)



マユミ (由布岳)



ヤマボウシ (英彦山)



クリンソウ (英彦山)



オオヤマレンゲ (英彦山)



ベニドウダン (英彦山)



カマツカ (英彦山)



## 7. 参加者の所見と感想

<金子 CL>

おやじの山旅 7 年目を迎えた。昨年5月に計画した九州の山(北部)が緊急事態宣言発令中で一年延期した。その計画を今回実行した。山の選定にあたっては九州の山を2回(2年)に分けて計画することにした。今回(1年目)は雲仙岳、阿蘇山、祖母山、大船山、久住山、由布岳、英彦山の7座を計画した。全日程6日目の大船山登山が悪天候予報のため登山を中止して湯布院観光に変更した。また翌日の久住山登山も湧蓋山 1500m(大分県九重町と熊本県小国町の県境の山)に変更した。当初は法華院温泉に宿泊してミヤマキリシマが咲きほこる大船山・久住山と温泉を楽しむ計画だったが・・・残念ながら来年以降におあずけとなった。他の山はお陰様で好天に恵まれ計画通り登ることができた。

全体を通し振り返ってみると、依然マスク着用は必要なもののコロナ感染者も減少傾向にあり昨年、一昨年に比べると行動しやすかった。また悪天候時の対応についても事前検討で有意義に行動ができた。年年メンバーの対応力も向上しており、おやじの山旅もブラッシュアップしてきた。

今回の参加者はゲストの津田利栄子さん、鈴木浩子さんを含め9名(内 女性2名)の仲間が集まった。気のおけない愉快的仲間達との山旅は実に楽しい。次回も同様にしっかりした計画・準備で楽しい山旅を続けていきたい。

<追記>

ふるさと熊本、阿蘇山へ初めて行ったのは小学校の修学旅行だった。その後、帰省した時に雄大な阿蘇の景色を見たくて外輪山から阿蘇山へ何度かドライブに行った。その当時に見た中岳火口が今回の登山で一変した。一面灰色の大きな火口が変わっていた。山麓から見る新緑の阿蘇山の美しい景色と相反し、真ん中(中岳火口)は大噴火で凄惨なことになっていた。あらためて自然の怖さを感じた。また、登山初日に登った雲仙岳(普賢岳)も同様に平成3年の火砕流が有明海まで達し、家屋が屋根の下まで埋った現場を見学し驚いた。今回は山の噴火の怖さを知る山旅でもあった。

【金子記】

【おやじの山旅 履歴】

No.	年	期間	山域	主な山(標高)	参加人数
1	2016	6/25~7/3	北海道の山(道央・道南)	羊蹄山(1898m)	13
2	2017	6/24~7/2	北海道の山(道東)	羅臼岳(1660m)	12
3	2018	6/30~7/8	北海道の山(大雪)	トムラウシ山(2141m)	13
4	2019	6/22~6/30	北海道の山(道北)	利尻山(1719m)	13
5	2020	8/22~8/30	東北の山(南部)	磐梯山(1819m)	11
6	2020	10/16~10/25	東北の山(北部)	岩手山(2038m)	10
7	2021	10/6~10/14	関東の山(北部)	谷川岳(1977m)	8
8	2022	5/25~6/2	九州の山(北部)	阿蘇山(1592m)	9

<天野 会計担当>

会計 ; 移動方法が毎年変化し、会計報告資料を作成するのが面白いです。

感想: 天野

とても楽しい山旅でした。印象深かった事を列記します。

普賢岳: 後半は雨だったけど花が綺麗だった。平成新山が見られた事。

熊本城: 天守閣は綺麗に修復されていたが、石垣が崩壊していて修復にはあと15年くらい要すると分かった。

阿蘇山: 噴火口が以前と違っていた。

祖母山: 登りはとても快適で、いつまでも歩いていられそうな気分。しかし下りは険しかった

九重山を観光に変更: 二日間の天候予測が悪く「法華院温泉をキャンセルも有りだな」と内心思っていたところ、

ほかのメンバーから同様の提案がありを迅速な変更ができて良かった。

湧蓋山: 花、下山後の温泉と地獄蒸し。

由布岳: 西峰への登りとお鉢周りが想定外に険しく、とても楽しかった。

英彦山: 北岳からの下りが辛かった。花が綺麗だった。

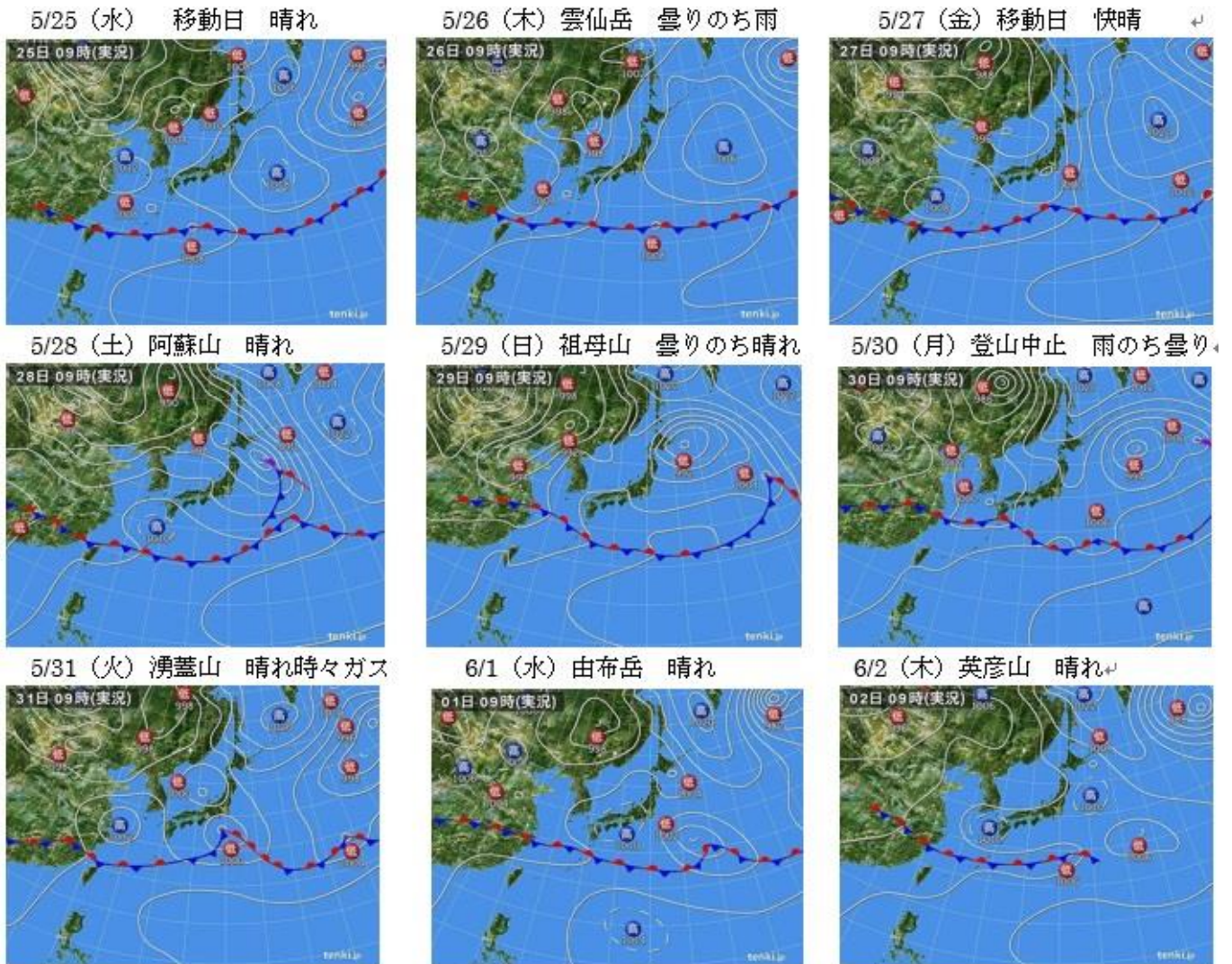
交通: ハイエース一台で回れたのは本当に良かったです。金子さん、町田さんありがとうございます。

宿泊: 今回連泊が多く、楽しかった。どの宿も食事・環境とも素晴らしかった。



<竹内 気象・写真担当>

気象担当



5/26 (木) は曇り空の中、行動中に雨に降られる。

5/30 (月) 予報通り雨。山小屋 (法華院温泉) に宿泊・キャンセルの連絡。大船山登山は中止して観光にする。

5/31 (火) 山小屋 (法華院温泉) の宿泊をキャンセルしたので登山は久住山から湧蓋山に変更する。

写真担当：竹内

天気が良い日が多く写真を撮る機会もあり良かったです。

皆さんの素晴らしい写真提供もありアルバム作りがしやすかったです。

感想：竹内

今回も皆さんのおかげで無事、山行に参加できました。

「ありがとうございました。」

これからも体力維持に努めて、元気で参加できるように頑張りたいと思います。



### <町田 SL、地形・記録担当>

今年も山旅の初日は雨だった。(おやじの山旅の初日は雨! のジンクス通り) 雨の雲仙普賢岳に登り、ミヤマキリシマの山稜のガスの背後に仁王立ちの平成新山が「よく来たな! 」と歓迎してくれた。私にはそう聞こえた。幸先の良いスタートだった。

そして阿蘇に向かうのだが、私の百名山履歴の中で阿蘇山は既に登頂済みの山だった。



30年ほど昔、鹿児島に帰省の折、車で山頂近くまで行き、火口を妻と覗き込み「おお! これが阿蘇か」阿蘇山は登った。と、思い込んでいた。今回、高岳から中岳、火口近くまで周遊し最高点は1,592m(肥後の国と覚える/金子さんに教えてもらった)高岳であり、改めて阿蘇山を登ったことになった。その時に比べて(遠い記憶)火口が随分大きくなったイメージが強い。火の国阿蘇は脈々と生きており、その一端を垣間見られ、ちゃんと登頂でき感謝! である。



### <津田 記録担当>

今回の山旅で特に印象に残った事は、5つある。

1つ目; 妻の眼お岩さんハプニング。3日目の朝、妻が眼が開かないと言い、見ると左目が腫れあがっていた。虫用の薬を塗るも腫れあがったまま。仲間と相談し熊本市内で車を降り2人別行動で皮膚科の病院へ。状況を説明、飲み薬と塗薬をもらう。診察後、急ぎ熊本城へ。皆と合流するまでは観光どころではない。合流後に復興途中の熊本城をチラッと見て、昼食。飲み薬を早速に飲む。薬の効果か? 夕方頃に少し腫れが引いてきた。妻の状況次第で、阿蘇登山断念も考えていた。夕食・朝食も普通に食べ、腫れも引いてきたことから、阿蘇登山を決行。前回(4年前)の阿蘇は天気最悪、ガスで何も見えずピークハントだけ。今回の阿蘇は快晴、火口もハッキリ見える最高の登山。最高のご褒美(妻の状況好転、快晴、別行動を許してくれた仲間にも感謝。ありがとう!)だ。

2つ目; 由布岳西峰・東峰登頂とお鉢巡り成功。前回は強風で東峰登頂のみだったが、完全リベンジ成功だ。少し前に引率ガイドの滑落死亡というニュースがあり、若干懸念してが、この日も風が強い中(マタエ〜西峰頂上までは強風)での登山であった。幸いにも、山の女神に守られてベスト2の登山となった。

3つ目; 雨予想の天気状況から、迅速に法華院温泉をキャンセル、大船登山を湯布院観光へ変更。翌日の山行リーダー藤田さんの知見と判断で、久住山を涌蓋山(玖珠富士)登山に変更した事は大成功だったと思った。

4つ目; 英彦山を北回り周回登山したが、頂上から先が、岩場のアップダウンが激しく、ハードな山だった。

5つ目; 雲仙岳、初日雨のジンクス復活。天気に恵まれなかったが初登頂。平成新山もバッチリ見えました。今回も、面白い山旅だったと思います。皆さん、ありがとうございました。

### <上田 記録副担当>

今年で7年目のおやじの山旅となりました。

私もこの5月で72歳となり、平均的な健康年齢の末期です。

体力の面や、股関節の痛みなど、少し不安を感じながらの山行でしたが、無理の無い山行計画、体力や天候に沿った柔軟な計画変更などメンバーの配慮と協力で、美しい山々を完歩することが出来た事を皆さんに感謝します。私も後3年の体力づくり努めて参ります。



<鈴木 浩子さん>

山旅七年目、今年も数座であったが、ご一緒が叶った。皐月晴れに恵まれ新緑のなか、阿蘇山、祖母山とカルデラを満喫させていただいた。

七年前、北海道道南地方積丹岳からはじまった山旅、集合初日の夕刻、幸先を予感させる大きな虹がかかるのを皆さんにまじり眺めたことが思い出される。

七年、皆さんにはどれほどのお気遣いをいただいたことか、、、そんな皆さんのお気遣いをよそにいやこれからも現在進行形などと、今ではすっかり我が物顔の自身がいる。

綿密な企画立案にはじまり、道すがらその時その時の最善のご判断、ただただ敬服にございます。

大安全、大安心の山旅に、有り難さいっぱいにございます。

これからももう少しどうぞご一緒させていただけますよう切に願うものである。

<津田 利栄子さん>

今回も参加する事ができ、いつもの様に皆さんに甘えながら終える事ができました。ありがとうございました。山旅が始まって7年。私は毎回MAXの力で歩いているので余裕もありません。でも、この頃「よく歩ける様になったね!!」と言われる事があります。進歩もなく毎回甘えながらの参加で申し訳なく思っている私に、とても嬉しいお言葉！この7年間、皆さんの忍耐のおかげで私も蟻の歩みでも前に進んでいるものと・・・

10年の節目まで後3年！毎回、「行っていいの？やめようか？」と主人に何度も聞きながらの参加ですが、今は私の目標にもなっています。(無理と思ったら、いつでもNO！と言って下さい)

これからもどうぞよろしくお願い致します。

#### 参考；会計報告

項目	金額(円)	備考
宿泊費	550,950	64,642 円/1 人
ドリンク代	31,900	
交通費	189,368	23,094 円/1 人
(レンタカー代	(148,680)	交通費に含む
(ガソリン)	(22,608)	交通費に含む
(高速)	(6,020)	交通費に含む
(その他)	(12,060)	交通費に含む (フェリー代 11,060 円、駐車場代 1,000 円)
合計	772,218	

#### 【編集後記】

7年目ですか？ もう、そんなになるのか？とも思えます。7年間、よくも面白く楽しい山旅を続ける事ができて、よかったな～と思っています。私も、以前は徹夜で編集もできたのですが、徹夜は無理、頭と体が悲鳴を上げます。編集の体力も、徐々に弱ってきている感がします。報告書の完成が、目標とした期限を越えてしまいました。申し訳ありません。10年計画、残り3年何とか、頑張っって楽しい山旅を続けていきましょう！